

「国語」の出題の意図

国語の問題は、高等学校までに培った総合力を判定することを目的として、文科・理科を問わず、現代文・古文・漢文の三分野すべてから出題されます。選択式の設問では測りがたい国語の主体的な運用能力を測るため、解答はすべて記述式としています。なお、文科・理科それぞれの教育目標と、入学試験での配点・実施時間をふまえ、一部に文科のみを対象とした問いを設けています。

第一問は、現代文の論理的文章についての問題です。今回は松本卓也の文章を題材としました。精神分析とオープンダイアログのそれぞれの臨床空間における治療の原理について論じた、具体的論述と抽象的論述の両方を具備する文章を正確に読解する理解力と、それを簡潔に記述する表現力が試されます。また、全体の論旨をふまえつつ、ある程度の長文でまとめる表現力を問う問題も設けました。

第二問は、古文についての問題です。平安時代の『狭衣物語』を題材としました。古文の基礎的な語彙と文法の理解をふまえ、男性貴族が亡くなった恋人を弔う法要の様子とその後の展開、二人の心情が文章に沿って理解できたかを問いました。文科ではさらに、和歌の表現の理解を問う問題も出題しました。

第三問は、漢文についての問題です。今回は白居易の五言古詩「双石」を題材としました。漢文の基礎的な語彙・文法および詩の構成法をふまえ、世間に無用とされた石を友としようとする詩人の心情が詩の構成に沿って理解できたかが問われます。文科ではさらに、この世のものとは思えない石の美の発見を説明する問題も出題しました。

第四問は、文科のみを対象とした、文学的内容を持つ文章についての問題です。今回は仲谷実織の小説を題材としました。転居先での母娘の心情や、近所に住む女性の胸中を、状況や人柄に即しくみ取る読解力と、それを簡潔かつ的確に表現する力を問いました。